

# かずさの博物誌

## イタチ

～小顔で可愛いけもの～

文・写真／成田篤彦

2015.12.20



▲イタチが訪れる春の谷津田 2015年3月19日 木更津市



▲農道に現れたイタチ 2013年5月5日 木更津市

◎成田篤彦

memo

イタチ  
ネコ目 イタチ科

全長雄は三十九センチメートル、雌は十六～二十三センチメートルで著しく小さい。上総の水辺周辺にすむ。カエルやアメリカザリガニや魚、果実などを食べる。春から夏にかけて穴の中に普通四匹の子を産む。

先々年の五月晴れの日、川土手の藪から農道に出た時であつた。イタチが、農道上でキヨトンとして私を見ていた。  
「あ！イタチ、若い雄？」とびっくりした。

全身、黄褐色で光沢があり、美しい。それに、小顔で、耳が小さく、可愛らしい。

急いでシャッターを切った。

しかし、二回シャッターを切ったとき、身をひるがえして、藪の中に飛び込んでいった。

その間、約一～一秒。

昨年は、春に、一匹の雄が堰の岸辺でうろついていた。また、初夏の夕暮れ、雌がネズミをくわえて、県道脇の用水路の中を素早く走り去った。

イタチを見るのは年に一～二回だが、交通事故で死亡したものが多く、生きた姿を見たのは数えるほどであった。

また、今回のように上総で撮影できた例は二回しかない。

薮から農道に出た時であつた。イタチが、農道上でキヨトンとして私を見ていた。

「あ！イタチ、若い雄？」とびっくりした。

全身、黄褐色で光沢があり、美しい。それに、小顔で、耳が小さく、可愛らしい。

急いでシャッターを切った。

しかし、二回シャッターを切ったとき、身をひるがえして、藪の中に飛び込んでいった。

その間、約一～一秒。

昨年は、春に、一匹の雄が堰の岸辺でうろついていた。また、初夏の夕暮れ、雌がネズミをくわえて、県道脇の用水路の中を素早く走り去った。

イタチを見るのは年に一～二回だが、交通事故で死亡したものが多く、生きた姿を見たのは数えるほどであった。

また、ノウサギをとらえ、血を吸うなどイタチは体が小さいが、獰猛な肉食獣である。

イタチには「イタチの最後つ屁」という有名なことわざがあるよう

に、犬などに追われたとき、強烈な悪臭のガスを放出して逃れる。

だが、一方で彼らは天井裏のネズミや多数のノネズミを駆除するし、その毛皮は光沢があつて美しく、ミ

しかし、イタチの足跡が、田植え前の水田や湿地や海岸などでしばしば見つかり、彼らが身の回りで活動していることが分かる。

上総でもイタチが鶏舎に侵入し、一夜で数羽の鶏を殺してしまい、農家の方を困らせる。

また、ノウサギをとらえ、血を吸うなどイタチは体が小さいが、獰猛な肉食獣である。

イタチには「イタチの最後つ屁」という有名なことわざがあるよう

に、犬などに追われたとき、強烈な悪臭のガスを放出して逃れる。

だが、一方で彼らは天井裏のネズミや多数のノネズミを駆除するし、その毛皮は光沢があつて美しく、ミ



▲湿地のイタチ足跡  
二〇一五年九月二七日 君津市



◎成田篤彦

▲ため池のそばにいたイタチ  
二〇〇七年二月八日 木更津市